



何の音も聞こえてこない。「管理センターに管理員が常時詰めているとは限らない」と何かの記事で読んだのを思い出した。5分、10分。やっぱり、そうか。長期戦を覚悟しなければならぬ。そうなると、非常ボタンの位置が高いのが苦になる。私の肩より高い。何十分もボタンを押し続けて、指も腕も疲れてきた。学校帰りの小さい子どもが一人閉じ込められたら、とても手に負えない。非常事態の情報が伝達されないと不安が広がる。ケイタイを持って出なかったことへの悔いととも、「子ども一人では乗せてはならぬ」という危機感に包まれた。

長期戦を覚悟すると、それまで押さえ込んできた不安が頭をもたげてきた。ただ、災害でなければエレベーターの構造に致命的な障害が起こったわけではあるまい。箱の転落といった決定的な事故は考えなくていいだろう。問題は、わが身がいまの状況にどれだけ耐えられるか、の点だ。第一にトイレ、次に脱水症・熱中症、空腹。長引けば体力の消耗も起こる。何しろ暑い。天井の換気扇は回っているが、外気が入ってこないからほとんど役に立たない。とはいえ、問題を意識しても対処の仕方は生まれてこない。幸い、だれも乗り合わせていない。気を楽しんで、成り行きに任せるほうが賢明というものだ。体力の浪費を防ぎ、この事態をどうすれば外部に伝達できるか、に知恵を絞ろう。そう決めたら、気持ちが楽になり、ゆとりが出てきた。

猛暑の中の昼下がり。マンションの通路に足音はない。人けのない場で壁をたたき音を立てても、手が痛くなるだけだ。最も効果的な作戦を立てなければならぬと、次のよう考えた。夕方、勤めから戻ってきたときを狙って、箱の壁を思いきり強くたたき、大声をあげて気づいてもらう。音がうまく外に伝わるかどうか心配だが、最悪でも夜静かになれば、伝わるに違いない。それまで体を休ませたいが、赤いボタンから手を離さないためには、立った姿勢でいなければならない。一方心の中は空白にするとかえって苛立つから、何かに集中させたほうがいい。筋書きは定まったものの、心はざわざわと落ちつかない。情報が遮断された密閉空間の特異な環境は、不治の病の宣告さながらのインパクトで身に迫ってくる。

手提げ袋から、暇つぶし用に持ち歩いているナンプレの本を取り出して、挑戦することにした。片手を赤いボタンに取られているので、本を壁に押さえつけるのも鉛筆で書き込むのも、片手で処理する。やればできることが分かったが、ふだん、1題に20～30分で解ける4つ星レベルの問題に2倍ぐらいの時間がかかる。解放されるまで何問解けるか。

### 救いの女神現れ、パニックの危機去る

1問解きおわったとき、通路のほうから女性の声が聞こえてきた。「しめた。今だ」とばかり、ありたけの力を振り絞って箱の壁をたたくと、声が返ってきた。聞き覚えのない声だ。

「どうしました?」「閉じ込められていますウ～。インターフォンが通じません」

「えっ、何人ですかあ」「1人ですう」

「具合、悪いところないですかあ」「大丈夫ですう」

「ケイタイ持ってませんかあ」「ありませーん。通報お願いしますう」

「分かりましたあ」。しばらくして、「通じましたあ。すぐ出動してきますう。私、仕事なのでもう行きますが、頑張ってくださいねー」。足音が消えた。3時23分。事故の発生か

らすでに 56 分経っているが、予想したほどの長期戦の事態には至らずにすみそうだ。

生活生協の配達員か訪問販売か。家で仕事をしていると、見ず知らずの訪問販売者が毎日のようにドアホンをピンポンと鳴らしてくる。これまでは煩わしいだけでいいことは全くなかったが、今度ばかりは、その訪問に心の底から感謝した。

管理センターに情報が届いたというだけで、心に解放感が広がり、トイレや脱水症などの心配が吹っ飛んだ。ナンプレを解くピッチが早くなり、ふだんのペースに戻った。もう 1 問解けたとき、ドアの外で「気分悪くないですかあ」と、作業員の到着を知らせる声が響いた。このときまで、赤いボタンを押し続けてきたが、ついに応答はなかった。

「ブレーキを解除しますから、もう少し待って下さい」。手動で箱を引き上げているのだろう。ゆっくりと上昇し、5 階のフロアで止まった。ドアのガラス越しに、作業員がドアのロックを解除する姿が見えた。先刻の女性が「すぐ出動してきます」と知らせてくれたときから 24 分後、ドアが開き、密閉・孤立した狭い箱の空間が外界につながった。4 時 47 分、「エレベーター閉じ込め」の舞台は、1 時間 20 分で幕を閉じた。待望の外界の新鮮な風を思いきり吸い込んだとき、もう何日も遠ざかっていたように思えた。

作業員が 2 人、「すみません。誤動作の原因がまだ分かりません。これからよく点検します」といって、深々と頭を下げた。無事に解放されてホッとしたのは、閉じ込められた私だけではない。この人たちの顔は、箱の中でパニックが起こらなかったことに安堵していた。

「私は、機械が誤動作したことに怒りは感じません。1 時間 20 分の間、非常通報ボタンを押し続けたのに応答がなかったのはなぜか、それを説明して頂きたい」と言ってはみたが、現場では復旧が先となる。「接続が悪かった可能性がありますね。よく調べて後日、改めてご挨拶します」。それ以上の回答は得られなかった。

#### 安全確保は所有者・管理組合の責任

エレベーター内に閉じ込められる事故が大地震のときに多発することは良く知られている。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災のときは、大手 5 社のエレベーターだけで 210 件の緊急停止事故が起きた。運転中に地震が発生した際に、最寄りの階で停止させるように作動する装置（地震時管制運転装置）が取り付けられているものも多いが、これが理屈通りに作動する保証は乏しい。2005 年の千葉県沖地震の際は、78 件の閉じ込められ事故が報告されているが、このうち 73 件（93.6%）はこの装置を装着していたという。

大地震や大規模停電などの災害で閉じ込められ事故が多発すると、復旧作業員の手が回らなくなり、復旧・救出までの時間が長引くことになる。しかし、現実には同じ事故が日常的にも頻々と起きている。この 8 月だけでも、次のような事例がマスコミのニュースで全国に流れた。

(1) 静岡市駿河区の老人福祉センターのエレベーターが、70～80 歳代の女性 4 人を乗せて 1 階から 2 階へ移動中に緊急停止が起きた。このときは 5 分後に自動的に復旧したもの、同エレベーターは昨年 8 月と今年 1 月にも同様の事故を起こしていることから、所有者の市は製造業者に徹底した原因調査の報告を求め、安全が確認できるまで使用を禁止した。

(2) 横浜市営地下鉄横浜駅のエレベーターが、電車の乗客 5 人を乗せて地下 1 階一同 2

階間を移動中に緊急停止し、通報で保守・管理業者の作業員が出向いたが救助できず、市消防局に出動を要請し、事故発生から2時間後に箱の天井の救出口から救出した。

一口に「緊急停止」といっても、この2件は明らかに性格が異なる。エレベーターの専門家に尋ねると、地震時に最寄り階に停止させるための装置が敏感に作動しすぎると、ちょっとした衝撃や振動で誤作動を起こすもとなる。この種のトラブルは正常な作動の裏返しの現象ともいうことができ、正常と誤作動の境目は極めて微妙だ、という。これに対し、保守・管理業者が対応できない(2)の事例は本質的な事故である。

私が経験した情報伝達不能な事例は、本質的な事故と言わざるを得ない。このような事例は、どの程度の頻度で発生しているのだろうか。若松消防署に問い合わせると、消防署では救急出動の要請があったものだけしか掌握しておらず、全容は不明だ。

ここで私は、大きな思い違いをしていたことに気がついた。エレベーター事故の予防や保守・管理の責任は保守管理会社にあると思いついてきたのだが、実はそうでなく、法制上、その責任はエレベーターの所有者、マンションでいえば管理組合にあるのだ。

詳しくいうと、エレベーターの保守・管理に関しては、その所有者が「昇降機の維持及び運行の管理に関する指針」に従って行われるべきことが建築基準法で定められている。この指針は、日本建築設備・昇降機センターが平成5年に策定したもので、その中で「人身事故発生時の措置」として、応急措置、消防署・医療機関への連絡、被害者家族への連絡、専門技術者への連絡、特定行政庁等への報告などがあげられている。この場合の特定行政庁とは国土交通省を指し、その実務を担うのは市の建築指導課だ。

つまり、事故の報告は、エレベーターの所有者・管理組合が市の建築指導課へ行わなければならないが、その内容についても、事故発生から24時間以内に「昇降機事故速報」、事故処理が解決した日から7日以内に「昇降機事故詳細」の二段構えで報告すべきことを指示している。

マンションの管理業務は、実際には管理組合から管理業者、エレベーター管理会社などへ丸投げしたかたちで行われているが、エレベーターの日常の維持管理、運行管理の主体は所有者・管理組合であり、その責務も同じである。もちろん、管理会社は管理組合に対して責任を負うが、それは管理組合に対してであり、個々の組合員に責任を負うのは管理組合なのだ。前記の2つの事例が新聞に載ったのは、いずれも公共施設であることのほかに、所有者の市が負うべきエレベーターの維持・運行管理は監督責任にとどまることを言いたいがために公表したのであって、監督官庁(特定行政庁)の立場から出てきたものではない。同じ事態が民間のマンションで起きても、同様のニュースになるかどうか。

また、今回のように人身事故に至らない事例はこの指針の適用対象に含まれていないので、事故統計からは全体像をうかがうことはできない。利用者の立場からは「実害、人身事故に至らぬ段階で対応を考えることが大事故防止の基本だ」との指摘もある。学校帰りの子どもがエレベーター内に閉じ込められる事故が起きないように、所有者・管理組合が主体的、積極的に行動できるか、それはマンションの資産価値につながる問題ともいえる。

## 「扇風機のシャカリキ」

櫻木 大祐

ある夏の日。

若い二人のアリガチなお話。

男は坂上福士、都会で働く 24 歳。女は田中さやか、地方の大学に通う 22 歳。

二人は遠距離恋愛中である。

「もしもし俺だけど。」

「ン…ふくすい先輩？」

「ゴメン、寝てた？」

「うん。でも大丈夫。」

「ごめん、ゴメン」

「どした？」

「いや…」

「なに？」

「うん…」

「なによ…」

「さやか……………ゴメン！」

「……………なに？」

「仕事で…」

「……………」

「今度帰れない。ゴメン!!」

「……………」

「ホントに、」

「もお～！」

「ゴメン!!」

「違うよお！」

「え？」

「あんまりゴメンゴメン言うから、てっきり別れ話でも切り出されるのかと思っちゃったじゃない！」

「そっち!？」

「そりゃ会えないのはさみしいけどさ、仕事だったらしょうがないじゃん」

「さやか…」

「な～に!?!私がそんなに聞き分けの悪い女だと思った!?!」

「いやいや、この前あんだけ約束したのにさ…」

「何年付き合ってると思ってるのよ？」

「ありがとう…」

「えっ、なによ急に…」

「ゴメン……」

「……………ねえ」

「ん？」

「大丈夫…だよな？」

「何が？」

「…ううん、何でもない…」

「何だよ!？」

「うん…お仕事頑張ってるね♪」

「…ああ…」

さやかは車窓の景色を眺めていた。夏空が目にもぶしい。

麦わら帽子にキャミワンピ、ナチュラルメイクにツインテール。

「ちょっと子供っぽ過ぎたかしら…」と呟きながら、さやかは福士の営業焼けした顔を思い浮かべていた。

「都会の…野菜は…高いわあ…」

スーパーのビニール袋を両手にさげて、さやかはアパートの階段を登っていく。

そしてポストの裏の合鍵を取ろうとした時、コトリと部屋の中から物音が聞こえた気がした。

ドアノブに手をかける。「あいて…る…」

風にゆれるカーテン、射し込む夏の光、もつれあうテラテラとした肌色、散らばった玉ねぎとトマト。

さやかはその光景を単純に「美しい…」と思った。

「さやか……………」

扇風機だけがシャカリキに首を振り続けていた。いや、ふくすい先輩も振ってたかしら…

「未来なんて誰にもわからない！」とかよく言うけど、この件に関しては多分、かなり前からわかっていた。ふくすい先輩も、たぶん…

ただ何気ない日常を、そんなシアワセの雰囲気、少しでも引き延ばそうとお互いに思っていただけだ。

これでおしまい。それだけ。呆気ないけど、取り返しのつかないことや物事の終わりなんてそんなもんだ。

ただ、終わりのキッカケが美しいシーンで良かったと思うだけだ。

さやかの22歳の夏のそんな出来事を、さやかの女友達は、「ふくすい、盆に帰らず」事件と言うとか言わないとか…

## 秋の贈り物

上田 喜久雄

9月に入って随分しのぎやすくなった。晩酌の友も、これまでの冷奴から湯豆腐にかわった。うれしい事に、なかなか美味しい豆腐にめぐり会えなかったが、つい先日、本多商店を紹介いただいた。

そのお店は、天籟寺川のたもとにあり、昭和橋と御馬橋の中間に位置する。家から歩いて片道30分強で、ほどよい朝のリハビリコースとなっている。これも、拙文「川ものがたり」を書かせていただいたご縁かと、ひとり感謝している。

この秋、もうひとつご褒美をいただいた。それは9月より、テレビ「チャンネル銀河」で2ヶ月連続のサスペンス劇場がはじまり、冒頭に松本清張スペシャルが取り上げられたことである。

スタートの2日には『帝銀事件』が、3日に『紐』、4日には『捜査圏外の条件』、5日に『影の地帯』、6日は『喪失の儀礼』、9日に『状況曲線』、10日には『中央流沙』が放映された。すでに観た作品ばかりであるが、いずれもよい出来上がりで何回見ても見飽きない。すべて再放送もあるのももう一度楽しみたいと心ひそかに思っている。

## タヌキとエビ

内田 博巳

あんたがたどこさ 肥後さ  
肥後どこさ 熊本さ  
熊本どこさ センバさ  
センバ山には狸がおってさ  
それを猟師が鉄砲で撃ってさ  
煮てさ 焼いてさ 食ってさ  
．．． ．．．

「肥後てまり唄」である。この唄には二番があるのをご存知だろうか。

熊本市中央区船場町にある船場橋の熊本中央郵便局側の欄干にはタヌキ、道を挟んだ文林堂前の欄干にはエビの像が載っている。

二番目の唄は、こうだ。  
あんたがたどこさ 肥後さ  
肥後どこさ 熊本さ  
熊本どこさ センバさ

センバ川にはエビさがおってさ  
それを漁師が網さでとってさ  
煮てさ 焼いてさ 食ってさ  
．．． ．．．

タヌキがエビに、猟師が漁師に、鉄砲が網に変わっただけのような歌詞だ。

ところで、この唄、よくみると、問答の形式になっている。

「あんたがたどこさ」の問いに、「肥後さ」と答えている。そして、「肥後どこさ」「熊本さ」「熊本どこさ」「センバさ」と、問と答えが続く。

ここで、疑問が湧いてきた。「この唄が、熊本発生なら、なぜ、肥後とか、熊本と、地元なら判りきった地名を出すのだろうか。センバだけでいいのではないか。もしかしたら熊本以外で唄われていたのではないだろうか。

調べてみると、一つの異説があった。

発生の地は、埼玉県川越市だというのである。

戊辰戦争の折、薩長軍が振武隊（彰義隊の残党）を追って、川越に入った。その城の近くの山に、薩長軍が駐屯する。その山の名前が、字こそ違いが仙波山だった。

この唄は、仙波山の近くの子供たちと熊本出身の兵士が、問答する様子だというのである。

この異説では、センバ山の狸の正体は、徳川家康としている。その根拠は、仙波山には、「日本三大東照宮」の一つ、仙波東照宮あるからだという。

家康を、撃って、煮て、食べる。なんと過激な。

他の説もある。山梨県にある丹波山が、センバ山だという。

多くの異説があるというのは、この唄が、全国津々浦々で親しまれている証拠だろう。話を元に戻そう。

「センバ山」「センバ川」と、記してきたのには理由がある。

熊本市電の電停は「洗場橋」、町名は「船場」なのである。

川の名は、今、坪井川という、熊本城の横を流れる川である。昔は、ここで馬を洗っていたそうで、「洗馬川」とも呼ばれていたらしい。また、ここに船だまりがあったので船場という地名が付いた。

タヌキについて書いたのだから、エビについても書きたいのだが、まだ調査中である。エビの種類は手長エビ。坪井川清流の会が、手長エビを放流しているくらいの情報しか得ていない。

エビについての情報があれば、お知らせ願いたい。



何の話かと言えばおしりの話。

しかも、そのネタでもう2時間も盛り上がっているらしい……

……聞かれば答えねばなるまい……

とうとう私がう〇こしてるということを皆に公開しなければいけない時がやってきたようだ……

秘密の私生活……しかも個室の中のわたくししか知らないわたくしの行動……  
ウォシュレットする前にトイレトペーパーでおしりを拭くか拭かないか……

私の答えは……「……( ̄◇ ̄;)エッ ? 拭く人いるの?」

その時6人で話してて、拭かずにウォシュレット派が4人、拭いてウォシュレット派が2人。

「ちよつとちよつとお〜、なんで拭くと?」

「いきなりウォシュレットしたら便器が汚れるような気がするけん」

……フムフム……

なるほどね。

人の考えはいろいろやね。

私はなるべくブツに手を触れない状況がいいと思うけどな〜

もちろんウォシュレットした後は拭くけどね。

何というか……水分をね。

で、まあウォシュレットだけでは不十分な時もある……

そんな時はもう一度……よ〜〜し、スイッチオンだあ〜〜〜!(o ><)o

まあ、どうやってウォシュレットを使うかよりも

そのあとの手洗いが重要なことは言うまでもないことですが……

……私が加わってからも1時間くらいは、そのネタで盛り上がったから……

キミたち、サンジカンモ、う〇このハナシシテルンダヨ……フフフフフ (≧ω≦)

こうしてスナックアンナの夜は更けていったのでした。

あ〜〜面白かった!

しかしこんな暑い日はやっぱり「りんたろう」の「冷やし豆乳ちゃんぽん」ですよ!

自分でもハマってる!! ほぼ毎日食べてます。

(……自画自賛かヨ。( ̄\_ ̄;)……)

豆乳は毎日出来立てを豆腐屋さんが持ってきてくれるしね!

この豆乳がまたうまいっちゃん!” (\*>ω<)o”クーーッ

8月9月のランチタイム(11:30~14:00)は100円引きで680円で~~~~  
す!

ぜひお試しください!!

ホームページ <http://www.hajimenoippo.org>  
メールアドレス [ippo@eos.ocn.ne.jp](mailto:ippo@eos.ocn.ne.jp)  
メルマガ <http://www.mag2.com/m/0000205017.html>

海鮮居酒屋はじめの一步

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目7-15  
0120-343-914  
092-471-1850  
営業時間 平日17:30~24:00 ラストオーダー23:00  
土曜日17:30~23:00 ラストオーダー22:00  
定休日 日曜・祭日・盆・正月

スナックアンナ

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目11-1  
092-471-3923  
営業時間 平日20:00~25:00  
土曜日20:00~24:00  
定休日 日曜・祭日・盆・正月

味工房はじめの一步 (通販)

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目5-1-2F  
092-483-0062  
営業時間 10:00~17:00  
定休日 日曜・祭日・盆・正月

和風ちゃんぽん りんたろう

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目5-1  
092-483-0052  
営業時間11:30~21:00  
定休日 日曜・祭日・盆・正月

さけのみてふ・・・

蘇宅 韓五郎

酒呑みが、感じ、思いつくままに31句。何故、31句?  
酒が呑めてよかった、酒呑みで本当によかった?

神戸まで新幹線の花見かな

花よりも酒を讃える真昼間

口実にまたもや使ふ暑気払

葉降る二合を猪口で楽しみり

ボジョレヌーボー遠き旅終へ喉走る

扇風機の生ぬるきかな二日酔ひ  
昨日楽し今日ほうるさき蟬の声  
半夏生 2 / 8 (はちぶんのに) の刺身かな  
花冷えを補なふやうに瓶並ぶ  
春疾風腹の酒まで揺さぶりぬ  
ビール函に座って呑むや夏立てり  
名月と夢のなかまで酌み交はす  
十六夜やゆんべの酒は五重丸  
立待や酒の流れは一直線  
半々の湯割り焼酎親譲り  
吾亦紅一人の旅のカップ酒  
あらばしり喉の流れの楽しかり  
にぎり酒おれの心を見透かすな  
酒呑みが酒を捨てた日雪のあり  
山笑ふ酔ふて電車を乗り違ふ  
荒天や昼から煽る冷し酒  
ハイボールの露まで美味し梅雨晴間  
まむし酒呑んで人でも喰いつくか  
遠き日の仕事納めは茶碗酒  
元日や酒で始まり寝て終はる  
酒の智恵借りる俳句の二日かな  
三日にはもう見たくない酒の類  
呑み友の懐かしくなる四日かな  
カップ酒揺らす小倉の祇園かな  
冷し酒夕日にかざし今日終へる  
言葉なく熱燗のある二人酒

## 『とあるカップ麺の作り方』

れくたあ監督

- ① 二日酔いで昼頃目覚める
- ②非常食 BOX をあさる
- ③アッサリ味のカップ麺を見つける
- ④ヤカンに火をかける。
- ⑤カヤクと粉末スープを取り出す
- ⑥カヤクと粉末スープを麺の上にあけ
- ⑦水を注ぎ 3 分待つ
- ⑧3 分もしないうちにヤカンのお湯が沸き
- ⑨水で麺を戻していた事に気付き
- ⑩暫し呆然とする
- ⑪水をきりお湯を注いだ後
- ⑫「アッサリ、アッサリ…」と呟く
- ⑬2 分 30 秒後にフタをはがし
- ⑭澄みきったスープを見つめ
- ⑮軽くため息をはく
- ⑯麺を一口すすり
- ⑰スープを一口飲んで
- ⑱麺の二口目はすすれず
- ⑲三角コーナーに捨てて
- ⑳ふて寝を決め込む

## 編集後記

☆台風くずれの大雨が去り涼気が訪れた8月末の一日、湯浴みに訪れた大分で「熱めし」に出いました。アツアツの白飯の上に、ブリ刺し身の醤油漬けを乗せただけの「鉄火丼」と似て非なるもの。注文した覚えのない2合徳利が添ってきました。いぶかしい顔をしてたのでしょう。「これ、カツオのだし汁です」と店主。生のままでよし、熱いだし汁でブブ漬けのようにして食べるもよし。1杯で2度美味しい、が売り言葉だとか。浜の漁師の常食だったそうで、柚子胡椒もきいて、うまい。1杯 500円は安い。徳利の中身が別物だったらさらにということなし、ですが。

☆機械の作動は絶対確実だ、と信じて疑わない人もいますが、私は、ネコの目のように（若い女性のように？）気まぐれだ、と思っています。例えば、愛用のPC。2年に1度ほど、キーボードが突然作動をやめます。ご機嫌をとりながらしばらく使い続けていると、元にもどる。この朝も、春からストライキ中だったキーボードが仲直りしようといいただきました。画面のキーボードを1個のカーソルで触れるより、実物を10本の指でたたくほうがはるかに能率がいい。ウキウキして外出したとき、エレベーターに閉じ込められました。どこで何が起きてても、最悪の事態だけは食い止められる仕組みを備えるのがフェールセーフの思想です。それを無視するとんでもない反逆に遭う。福島第一原発の爆発事故はその典型的な事例でした。酒蔵の酵母菌はどうかしらん。（ぼんぼん船）

☆9月11日を「はら閑」発行日とした。7月11日を「角打ちの日」と決め、全国発信した「神戸角打ち学会」に敬意を表し、奇数月の11日を「はら閑」発行日と固定した。

☆ゲリラ豪雨という言葉を目にするが、四十数年前に読売新聞が使用し、後に局地豪雨と言い換えたようだ。気象庁は局地的大雨というらしい。必要なところに降らず、不要なところに集中する。予想不可能、本当にゲリラだ。また、千年に一度の猛暑という言葉も耳にした。来年は、通常の夏であれば涼しく感じるかも？

「まあ、ゆっくり世間話をしていきませんか。お茶でなくお酒を呑みながら」。

投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。「酒」に縁のある内容であればということなしです。投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、[kei2@bronze.ocn.ne.jp](mailto:kei2@bronze.ocn.ne.jp)へ宜しく願います。

「はらぐち閑話」は、はらぐち酒店HP (<http://homepagel.nifty.com/haraguchi/sake/>) もしくは、戸畑はらぐち酒店で検索してくださいの「かくうちの部屋」でご覧いただけます。

次回発行は11月11日(10月31日締切り)とします。(今朝の鮭)

はらぐち酒店：北九州市戸畑区中本町4番19号

電話093-871-2150

[sake-tobata@nifty.com](mailto:sake-tobata@nifty.com)